

平成 24 年 11 月 13 日

学校法人 幸福の科学学園
副理事長 様

仰木の里学区自治連合会
会長



拝啓 晩秋の候、貴校ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、先日 10 月 30 日付け貴校からのお願い事項の文書を受け取りました。
仰木の里学区自治連合会としましては、6 月 19 日付け文書にてご説明（下記参照）
させていただいている通りで、現在もその考えについて変わりはありません。

-
1. 「開校を前提として進めることも必要ですが、その前に学校法人として住民に対して説明会を何度もするなど、地域住民に理解を得ることが必要。」
 2. 「危険な地盤についても安全性を証明していただくことが必要。」
ということです。
-

まず、いただいた文面において事実と異なるところがありますので指摘・訂正しておきます。

1. 「建物も完成に近づき」とありますが、これは近隣住民の苦情を無視して建設工事を進めていたから当然のことでしょう。
2. 「事あるごとにお願ひしてきました」とありましたが、貴校からに言われたことは例に書かれたことのみです。正しくは、私を含め住民側が貴校に対して当初より「事あるごと説明会等の開催をお願いしてきました」が正しい表現であります。
3. 「相互理解を一層深めるため」とありますが、徹頭徹尾、不誠実な学園という「理解」と最大最強の敵という「理解」であったものを解消していくという姿勢であることに間違いはないでしょうか。
4. 「地域の皆様方に愛され」とありますが、上記を含め言行不一致そのものであった信用できない団体から誠意のある団体に改善されることでよろしいでしょうか。

次にこれまでの経緯ですが、住民への説明会や協議会の内容や結果はどういった状況だったのでしょうか。説明会や協議会が開催されるたびに説明内容が乏しく、あるいは根拠が明確でなく、住民理解が深まるどころか、貴校に対する不信が増大し、開校した場合の住民不安が増大してまいりました。その結果、学園周辺住民をはじめ、学区内には学園建設反対のぼりが 1000 本近くも掲げられている状況です。

住民の大きな心配事である地盤問題については、先の建築審査会では問題なしと記載されておりましたが、校舎棟、寄宿舍棟ともに杭が一般より数多く打ち込まれております。これは軟弱地盤が故に建築物の崩壊を防ぐための措置でありましょう。

貴校が建築の正当性の根拠としている建築審査会においては安全性の確認は一切行われておらず、審議内容や裁決そのものを住民が問題にし、現在、建築確認取消しを求めて係争中であります。また、司法判断によっては建築確認取消しや工事そのものの執行停止処分の可能性もある状態です。そして何よりも学園建設において住民に全く理解されていないままの建築物の完成であります。

このような状況を鑑みて、現段階での話し合いの前提が確定している状況では無いように思えます。

住民側は今までに面談を拒否してきたのではなく、前述のように貴校が今までに住民に対しての態度、言動によってこれだけの多くの地域住民が貴校に対して不信を抱かしてしまったことは、これまで幾度となく住民側が求めてきた説明会を拒否し続け、工事に対する苦情も無視し続け、地盤調査をも拒否し、一方的に工事のみを優先的に進めてきた貴校側に責任があります。

貴校から行政に提出された報告書では実態とはかけ離れ、あたかもそれらがなされているかのような記述が並んでいたことは不誠実さの表れ以外何物でもありません。

また、工事にあたっては住民側から清水建設に直接連絡をすることも多く、施主である貴校や行政にも指導をお願いしたにも関わらず一向に改善されませんでした。挙句の果てには清水建設責任者は施主からの指示に基づくものだと言う始末です。

以上のことから、貴校とこれから前向きな話し合いをするにあたっては、別添の質問内容（確認・要望事項）の返答を書面でいただいてから検討させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、当自治連合会としましては、貴校との対話や交渉に関しては「地域住民が一体」という考えのもと、自治連合会未加入の5自治会を含めた仰木の里全22自治会が対象という基本姿勢であることもあわせてご承知おきください。

最後に事あるごとに「私どもは学校法人ですから」と言われておりましたことから、地域住民に対して真摯に誠意あるご回答をお願いいたします。

敬具

幸福の科学学園に対する確認・要望事項

記

1. 住民は2010年10月23日の新聞報道等で初めて幸福の科学学園建設について知りましたが、前自治連会長はじめ、自治連合会執行部、自治連合会とはいつから接触し始め、以後どのようなやり取りがあったかご説明ください。
2. 経緯報告にあった全ての自治会に対する説明会、協議会について内容及び結果をご報告ください。
3. 中高層協議会を含めた説明会では住民以外(教団・常務理事や建築関連業者)の登場などで会合が混乱しましたが、学園側としてどのように考えているのかご説明ください。
4. 副理事長は生徒たちを前にしての行事中での発言の真意をご説明ください。
 - ・ 住民は左翼・唯物論者、最大最強の敵について
 - ・ 県・市議会での質問は事前にキャッチし完全に潰したことについて
 - ・ 学園は伝道そのものを行っているについて
 - ・ 市のトップ、県・市の主要な幹部、議員で味方がいる。味方とは誰のことですか
 - ・ 学園開校の目的は、宗教教団の「ゴールデンエイジ」(2020年輩出)目的であり、そのために開校日程が定まっているについて
5. 副理事長が住民への説明会で各自治会に対して何度でも説明会を実施させていただきますと返答されながら一度も説明会を開催されなかったのは何故かご説明ください。
6. 住民側は貴校が実施する「対話会」を認めておりません。2011.9.10の協議会において「説明会」の継続を求めておりましたが、どうして住民の意思を無視して日程調整もせず「対話会」を強行的に実施されてきたのかご説明ください。
7. 地盤の安全性が建築審査会の結果で確認されたと記載されておりましたが、建築審査会では地盤の安全性について何ら確認されておりませんので、竣工前に地元住民の立会によるチェックならびに、地域住民の不安解消のために、敷地内の地質ボーリング調査を実施していただきたい。貴校でボーリング調査をされないのなら住民側で実施させていただきますのでその許可をお願いいたします。
8. このまま「開校」が強行されることになれば、学園で学ぶ生徒にとっても、仰木の里学区住民にとっても取り返しのつかない禍根を将来に残すことになりかねません。こういう状況を作った責任は貴校にありますので、貴校と仰木の里学区住民とともに歩んで行ける状況になるまで開校を延期していただくようお願いいたします。
9. 現在、深夜・徹夜にて工事や作業を突貫工事にて進められています。当初の約束通り18時までの作業時間にしたい。また、現在住民が裁判中であるので、学校法人であるが故、司法の判断を待っていただくよう、建築確認検査を早めることなく、司法判断の結果後もしくは、当初の予定通り(12月中旬以降)に実施していただくよう切にお願い申し上げます。

以上